

平成28年度計画の概要

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1 市立病院として担うべき医療

□救命救急センターを含む救急医療

- 堺市唯一の三次救急医療機関として、救命救急センターと集中治療科やその他診療科との連携を図り、重症患者を円滑に受け入れる体制を更に向上させる。また、精神科リエゾンチームによる救命救急センターの回診を強化し、精神科身体合併症を伴う重症患者の受け入れ体制を充実させる

□小児医療・周産期医療

- 隣接する堺市こども急病診療センターや地域の医療機関と役割分担を図りながら24時間365日の小児二次救急体制を維持する

□感染症医療、災害その他緊急時の医療

- 感染源や感染経路に応じた未然防止及び発生時の院内感染対策を確実に実施するため、感染管理研修会の開催や院内ラウンドの実施により、職員の危機対応能力を高める。
- 災害拠点病院として、地域の医療機関や救急ワークステーションと共同の災害訓練を実施するほか、看護学生やボランティア等の参加を促し、災害発生時の対応と知識・技術の向上を図ると共に、医療機関への支援、診療情報の収集・提供を行う。

2 高度専門医療の提供

□がんへの対応

- 地域がん診療連携拠点病院として、診断から治療、緩和ケアまで集学的治療を行い、質の高いがん医療を提供する。また、緩和ケアチームが早期に介入し緩和医療を提供することでメンタルケア等を行い、がん患者のQOL向上に寄与する。

□脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病への対応

- SCU運用体制について検討し、救急ワークステーションや救急隊との連携のもと、更なる脳卒中治療の充実を図る。
- 急性心筋梗塞については、引き続き24時間365日のハートコールにより緊急度・重症度の高い救急患者に迅速なカテーテル治療を行うなど専門的な診療体制を堅持するほか、心臓血管外科の設置に伴い、外科的手術が必要な患者の24時間365日の受け入れを継続する。
- 糖尿病については、引き続き糖尿病教室や糖尿病市民講座等を開催し、総合的な糖尿病療養支援を実施するとともに、糖尿病地域連携バスを用いて地域の医療機関との連携を強化する。

□高度専門医療への推進

- da Vinci（手術支援ロボット）やIMRT（強度変調放射線治療）の導入により、更なる低侵襲治療の推進を図る。
- 診療科の垣根を越えた臓器別センター設置を検討し、スムーズな連携体制を構築することで高度専門医療を提供する

3 安心・安全で信頼される患者中心の医療の提供

□医療安全対策の徹底

- 医師のインシデント・アクシデントレポート提出を促し医療安全文化を醸成する。また、患者急変時にも即応できるよう、ラピッドレスポンスチームの導入を検討する。

□医療の質の向上

- 医師、看護師、コメディカル等、多職種によるチーム医療体制を拡充し、入院早期から個々の医療従事者が専門性を発揮することで、より良い治療やケアに繋げる。

□法令・行動規範の遵守（コンプライアンス）

- 法令及び法人の諸規定を周知するほか、日々の業務を通じて規程や基準の点検・改善を行い、コンプライアンスについての職員教育を実施する。

□患者の視点に立った医療・患者サービスの向上

- 当院の特色や特徴、役割を市民及び患者に広く知ってもらうため、広報誌やホームページを充実させ、積極的な情報発信を行う。

4 地域への貢献

□地域の医療機関との連携推進

- 地域の医療機関や訪問看護ステーション、介護施設等との更なる連携体制を強化し、更なる後方支援病院確保する。

□地域での医療従事者の育成

- 各種専門医の研修機関としての認定を促進するほか、シミュレーションセンターを積極的に活用し、教育研修体制を拡充することで初期研修医及び後期研修医にとって魅力のある研修体制を確立する。

□医療、保健、福祉、教育など行政全般等との連携と協力

- 利用者のニーズに応じた人間ドッグメニュー、オプション検査の充実等により、需要の拡大に対応できる体制を構築し予防医療の推進に取り組む。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 効率的・効果的な業務運営

□自律性・機動性の高い組織づくり

- 目標管理によるマネジメントを徹底し、各部署がそれぞれの経営目標についての認識を共有し、着実な目標達成を促進する。

□質の高い経営

- 外部環境や医療提供体制等の変革などを見据えた経営戦略を立案するため、地域医療構想に基づき、当院が高度急性期病院として担う医療提供体制について検討する。
- 予算の執行状況等達成率を定期的に報告するなど、適切な予算管理を行い法人の財務状況を随時確認する。

□外部評価等の活用

- 監事監査や会計監査人による監査及び内部監査を実施し、監査結果等を業務運営に適切に反映すると共に患者及び市民の目線に立った業務改善を行う。

2 やりがいを感じ、働きやすい病院づくり

□職員のキャリアアップにつながる人事・給与制度の整備

- 組織の核となるリーダー職員の育成に重点を置くと共に「教え教えられる職場」を構築するため、院内講師による研修会を開催する。

□働きやすい職場環境の整備

- 職員満足度調査の結果を踏まえ、満足度の低い項目については現状把握を行うとともに改善に取り組む。また、所属長へ労務管理研修を実施し、ワークライフバランスに配慮した職場環境を推進する。
- ストレスチェック制度の導入に伴い、メンタルヘルスに関する研修会の開催や支援を充実させ体制を整備する。

第3 財務内容の改善に関する事項

1 安定した経営基盤の早期確立

- 診療報酬請求についての業務を担う職員の能力向上を図るとともに、医療スタッフについてもDPCの仕組みや診療報酬に関する研修会を実施し経営意識を醸成させ収入確保につなげる。
- 費用削減においては、ジェネリック医薬品への更なる切り替えや、診療材料における同種同効品の集約化の拡大を進める。また、委託契約の仕様の見直しや経費削減に向け取り組む。

第4 その他業務運営に関する重要事項

1 環境にやさしい病院運営

- 環境負荷軽減のためゴミ分別の徹底を図るほか、紙のリサイクルをはじめとする廃棄物の削減に努める。また、光熱水費については、照明・空調温度等のきめ細やかな取り組みを進めると共に、使用料等の推移を職員に周知し適正利用を促す。

2 新病院の整備及び運営に関する取組

- 本項目については、平成27年7月に新病院への移転を終えたため計画完了

目標指標

目標指標	26年度実績	28年度目標
救急搬送受入件数	8,055件	8,600件
小児救急搬送受入件数	1,550件	1,500件
小児救急紹介件数	390件	400件
分娩件数	458件	460件
化学療法調製件数（※1）	8,635件	7,700件
放射線治療延件数	5,917件	6,250件
悪性腫瘍手術件数	959件	980件
がん登録件数（※2）	1,456件	1,450件
患者満足度調査結果（満足の割合）	入院 82.0% 外来 71.0%	入院 — 外来 —
紹介率	66.3%	66.0%
逆紹介率	73.0%	75.0%
地域の医療従事者への研修会実施回数	24回	28回
経常収支比率	100.4%	94.0%
一般病床利用率	89.1%	91.1%
平均在院日数	11.1日	10.5日
新入院患者数	12,919人	13,835人
手術件数	4,144件	4,600件
全身麻酔件数	2,134件	2,300件
後発医薬品採用率（数量ベース）	65.0%	70.0%
入院延患者数	156,028人	159,630人
外来延患者数	190,049人	201,690人
窓口負担金の収納率	99.4%	99.4%

（※1）注射薬から内服薬への切り替えが予想されるため
（※2）1月～12月実績